

うたごよみ

曾於文藝

俳句

末吉俳句会

黄落や大銀杏の風を浴ぶ

池田 安起徒

曇天に映ゆる黄葉の大銀杏

古藤 美奈子

児らの声弾け大銀杏散り初むる

前原 悌子

大隅俳句会

冬うらら鼻唄まじりの針しごと

穎娃 晴美

神無月室の麴の匂初め

川崎 綾子

川の土手盗みて一つ熟れし柿

岩重 みどり

短歌

大隅短歌会

山里の鯉料理屋の縁先に

田車かけありアートのごとく

竹内 娃子

名月は雲を蹴散らし輝けり

パネルに発電可能なほどに

西山 美代子

来年を約束出来ぬ老友と

庭に実りし柿を分けあう

川辺 敦子

「題字」

末吉文化協会会員

瀬戸口 淳民 氏

財部短歌会

秋日和かすかにゆれるる穂芒を
数本手折りて橋を渡りぬ

井上 澄子

風立ちて冬を呼びいる陽だまりに
ひとときわ赤き柿の実ひとつ

永岡 冴子

徹夜マージャン終へて口惜しき

川辺の瀬音サラサラ頭を冷やす

山城 忠

豊作の干柿カーテン見事なり

孫子喜ぶ顔思ひ出す

橋口 貞男

うたた寝の背にぬくもりを感ずれば

何時しか陽射しが部屋の中まで

川俣 若

蜜柑四種個性ゆたかに大中小

色付き始めたり温州蜜柑

瀬戸口 芳子

いつの世も絶え果てぬ親の虐待

庭先の雀の子育て見守る

児玉 次雄

茶の間にて旅せし心地味はへり

もみぢ前線南下の景に

杉村 リカ

素直にと生きる標を見定めど

邪悪になりゆく吾の老ひなり

祝迫 道雄

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

祝えつづき 財布あまびつ

辛ん義理 森山 厚香

吝嗇な奴 萎びた野菜で

義理をしつ 田代 勝泉

本当て寒み 萎びれ体が

疼つてつ 古川 一幹

肌もじやが 脳も萎びい

老人五体 鈴木 一泉

大隅薩摩狂句会

仕舞終つ 家内も元旦は

気楽しつ 太良木 五徳

飲ん奴が 仕舞をしてかあ

座い込つ 津留 群志

国債ちゆ 厄介な財布で

緑ゆ仕舞つ 神宮司 素水

身ごえとも 仕舞が良ければ

一気済ん 新屋 涼子



白菜の収穫風景（大隅南）